定留遺跡田畑地区
台　遺　跡

1999年度　中津地区遺跡群発掘調査概報(XII)

中津市文化財調査報告　第24集

2000

中津市教育委員会

巻頭図版　定留遺跡田畑地区 1、2、3区

例　言

一、本書は中津市教育委員会が1999年度に実施した中津地区遺跡群発掘事業の調査概報である。

一、調査は1999年度国宝重要文化財等保存整備事業費及び1999年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

一、調査団の構成は下記のとおりである。

一、調査主体　中津市教育委員会
調査責任者　前田　隼毅（中津市教育委員会教育長）
調査指導　賀川　光夫（別府大学名誉教授）
小田富士雄（福岡大学教授）
後藤　宗俊（別府大学教授）
真野　和夫（大分県立歴史博物館副館長）
調査事務　尾畑　豊彦（中津市教育委員会市民文化センター館長）
田中布由彦（　同　係長）
富田　修司（　同　主任）
高崎　章子（　同　）
調査員　渋谷　忠章（大分県教育庁課長補佐）
調査担当　花崎　徹（中津市教育委員会市民文化センター技師）

一、遺物整理は植山京子、植山トミコ、植山ヨシカ、黒川ミユキ、黒川洋美、松本黙、花田郁夫、徳永賀子が行った。
一、遺物の実測、トレースは花崎が行った。
一、遺物、遺構の写真撮影は花崎が行った。
一、本書の執筆、編集は花崎が行った。
一、現場作業は下記の皆さんの協力による。
植山京子、植山ヨシカ、植山トミコ、徳永賀子、黒川ミユキ、黒川洋美、松本黙、花田郁夫、田中静江、田中浩幸、田畑友子、田畑つねこ、友松美涼、羽立ヒロ子、松本貞子、羽立加代、羽立由利子、宮久君子、高松秀子、木下みずほ

目　　次

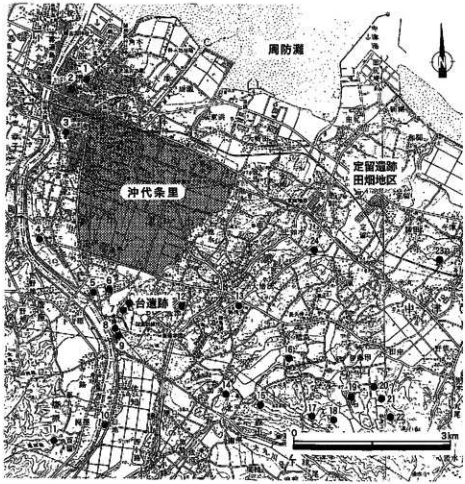
第１章　地理と歴史的環境 …… 1

第２章　定留遺跡田畑地区 …… 2
　１．調査に至る経緯 …… 2
　２．調査の概要 …… 3
　　１区 …… 3
　　２区 …… 4
　　３区 …… 4
　　４区 …… 11
　３．まとめ …… 11

第３章　台遺跡 …… 12

巻頭図版 定留遺跡田畑地区 1、2、3、区
図版１　定留遺跡田畑地区 …… 13
図版２　〃 …… 14
図版３　〃 …… 15
図版４　〃 …… 16

抄 録 …… 17



第1図　中津地方主要遺跡分布図

第1章　地理と歴史的環境

大分県の北部中津市は、人口約67,600人、市域面積55.67km²の中核都市である。西は山国川を挟み福岡県へ、東は宇佐市へ台地がのびる。山林は極端に少なく、平野と台地に大別される。

この地域の古代の人々は主に山国川、犬丸川沿いに生活をしていたと思われる。

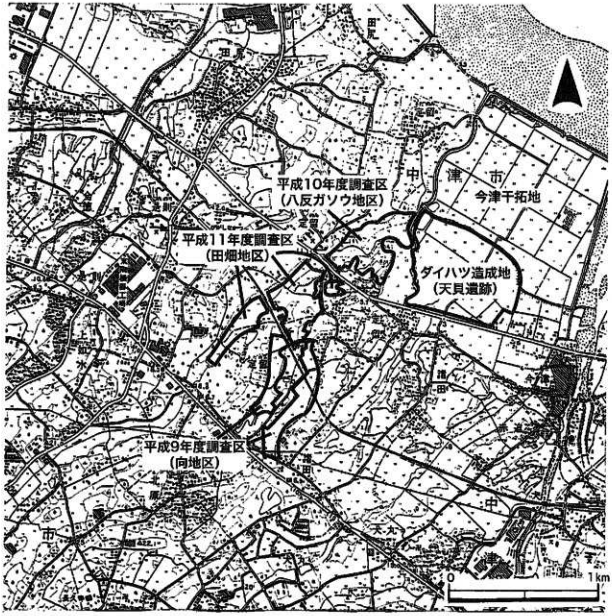
3の高畑遺跡では縄文時代晩期の土偶が出土している。

弥生時代の遺跡は16の福島遺跡、9の上ノ原平原遺跡などがあげられる。集落は台地上に形成されたと思われる。

古墳時代の集落は弥生時代と同様であるが、平野部でも散見される。丘陵上には17、19、20、21、22の野依伊藤田窯跡が立地し須恵器、須恵質瓦の生産が認められる。

白鳳奈良時代には沖代平野に条里制がしかれる。これは現在でも景観をたどることができる。12の長者屋敷遺跡は、下毛群衙の一角と思われる。定留遺跡では古代～中世に至る漁村が確認されている。ここでは現在も周防灘の恩恵を受ける。

第2章　定留遺跡田畑地区



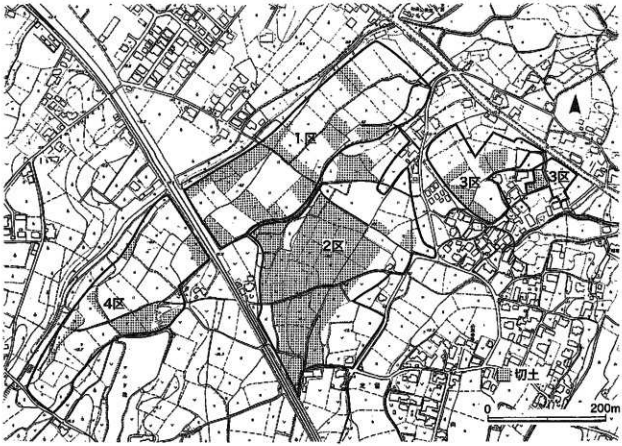
第2図　定留遺跡位置図

1．調査に至る経緯

定留遺跡は中津市の北東部に位置し、標高約13m程である。弥生、古墳時代の遺物包蔵地として周知されている。平成9年度より定留、諸田地区の農業生産の向上、生活環境の整備を図るため、圃場整備が実施されている。

そこで中津市教育委員会では、事前に試掘調査を行い遺跡の有無を確認し調査を行ってきた。平成9年度調査区(定留遺跡向地区)では、古墳時代の竪穴住居が一基のみ検出されただけであった。竪穴住居が検出された周辺は、工事において盛土が行われることから、本調査には至らなかった。

また、平成10年度にダイハツ工業株式会社の進出により工場建設予定地の試掘が行われた。予



第3図　定留遺跡田畑地区位置図

定地の大半は干拓地であった。旧地形の残る一部から縄文～古墳時代に至る土器片が出土したのみであった。このことから、周辺部に集落の存在が感じられた。

また、平成10年度の圃場整備予定地(定留遺跡八反ガソウ地区)の丘陵地からは、古墳時代～中世に至る遺構、遺物が大量に検出された。これにより、平成10年度、11年度において本調査が実施された。整理段階であるが、調査区からは、掘立柱建物数十棟、溝、土壙、横穴式石室などが検出され、古代沿岸部の集落を発掘することができた。そこで平成11年度圃場整備予定地(定留遺跡田畑地区)の試掘調査が実施されることになった。予定地は平成9年度調査区と平成10年度調査区の間に位置し集落の展開が予想された。

2. 調査の概要

調査は重機による掘削で、トレンチを設定して行った。図3は平成11年度圃場整備予定地である。調査区が広いため、地形で大きく4つに分けて考えたい。1区は中央の谷部、2区は中央の丘陵部、3区は東側の丘陵部、4区は西側の谷部とした。(3図)　調査区内で93本のトレンチをあけた。(5図)

1区

1区は谷部になると思われる。北側は標高13m程の台地、南側は調査区の2区、標高13m程である。平成10年度に行った試掘調査区の谷部では、溝1条、土壙1基が検出されたのみである。こ

の谷部は今年度調査区の１区とつながっており、遺跡の存在はあまり望めないものであった。１～7トレンチまで遺構はまったく確認できなかった。遺物は僅かであるが検出できた。古代～近世に至るもので、台地からの流れ込みではないかと考えられる。41トレンチから溝と思われる遺構を１条検出した。溝は幅約1.5m程で南西に進むと思われる。

また40トレンチからも溝を１条検出した。幅約0.4m程で暗褐色の土が入る。土師質の土器が出土したが、小片で時期は特定できない。このことからこの周辺は今年度、本調査を行うことにした。また54トレンチからピットを数基検出した。この周辺は工事で削られる事もなく、盛り土が行われることから、本調査の必要はないものと判断した。

2区

2区は今年度の工事予定地で切土される面積が広く、台地が広がる。また2区の南側は、平成9年度調査区(定留遺跡向地区)になり、古墳時代後期の竪穴住居１基を検出した地点である。遺跡の存在が期待された。しかし2区の北側では遺物、遺構とも検出できなかった。この付近の老人に聞き取りをしたところ『明治から大正にかけて、家の壁土を作るためこの周辺の土を馬車に乗せて運び出した』またその際に『土器が掘り出され、子供の遊び道具として使用された』とのことである。北側は耕作土(10～15cm)の直下は赤褐色の地山であった。前記した南側の平成9年度調査区の付近(25、26トレンチ)でピットを数基確認した。また削った表土から土器片を数点確認したことにより、この周辺は本調査の必要があるものと判断した。また2区中央部15トレンチから溝を１条検出した。褐色の上が入り込み明治以降と思われる陶磁器が検出された。周辺のトレンチからは遺物、遺構は検出されず、本調査の必要はないものと判断した。29～38トレンチからも遺物、遺構は検出されなかった。

3区

3区は平成10年度に発掘調査が行われた八反ガソウ地区に近く、古代の遺跡の広がりが予想された。71トレンチから掘建柱建物と思われる遺構が検出された。2間×2間の総柱建物であると思われる。58トレンチは溝状の遺構と思われる。この2つのトレンチからは遺物も数点検出された。

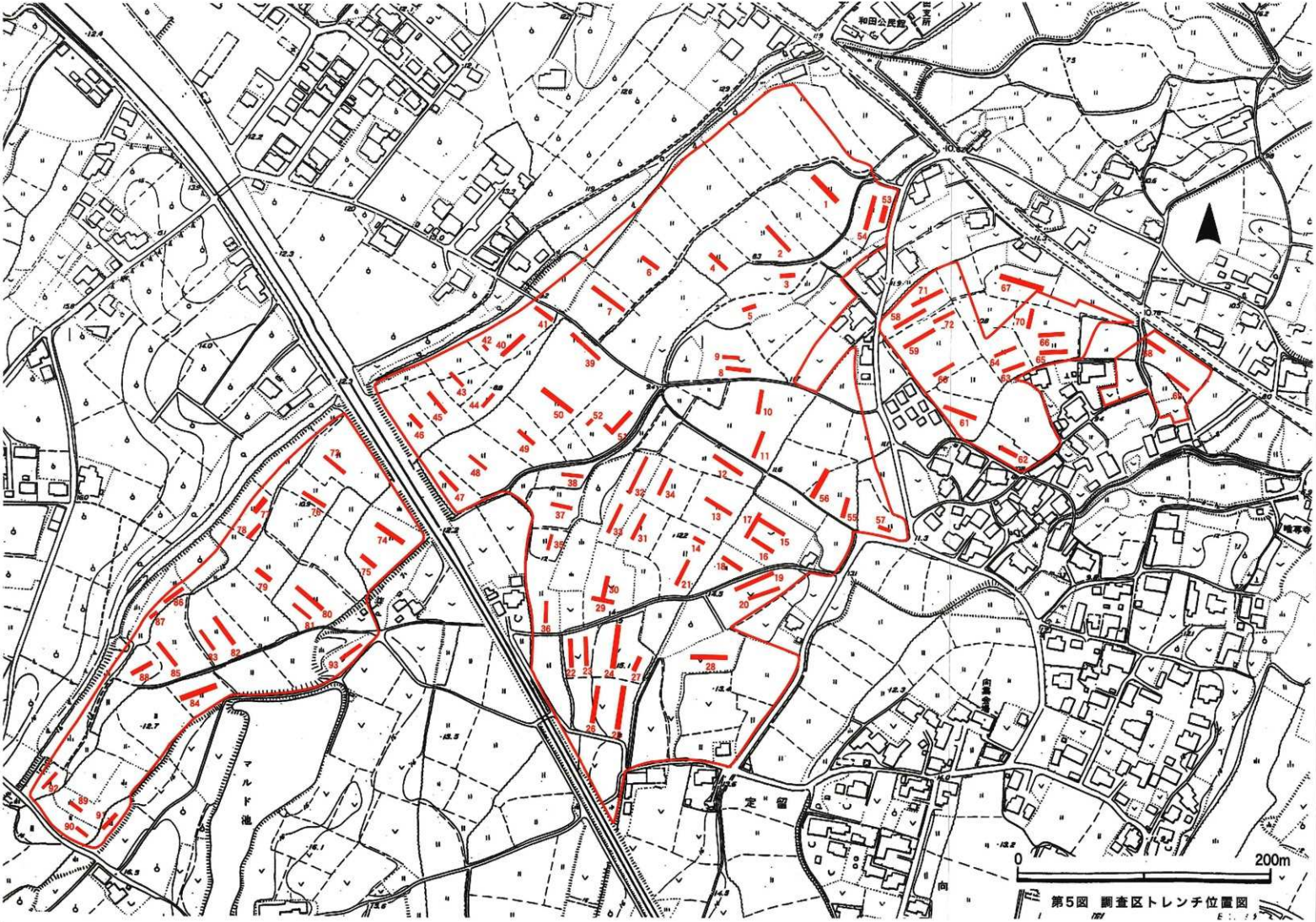
1. 灰褐色土層
2. 暗褐色土層（弱粘土）

1. 褐色土層
2. 明黄褐色土層
3. 暗褐色土層
4. 黒褐色土層
5. 灰色土層

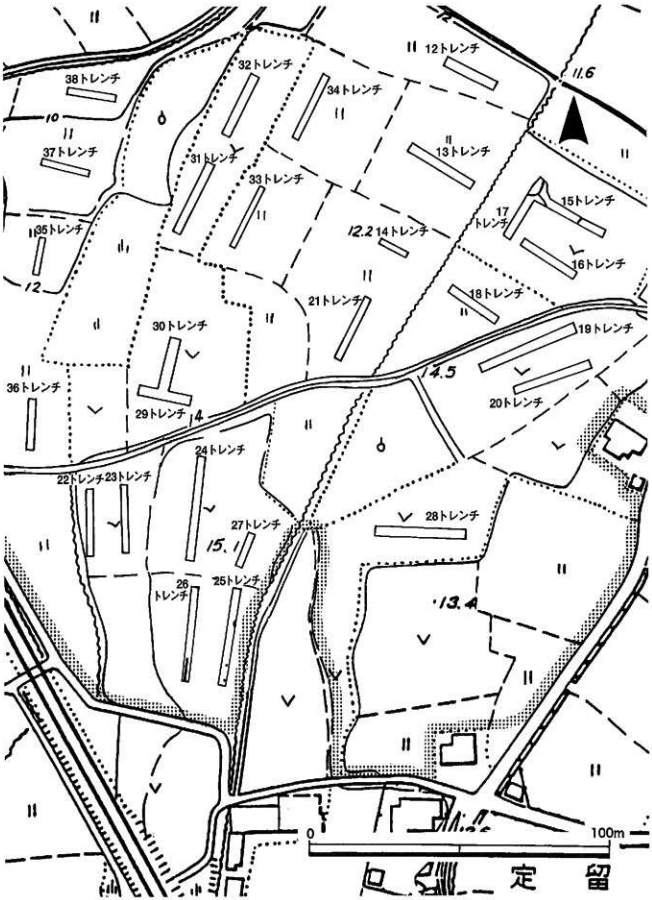
(30～50cmの石を多く含む

第４図　１区溝土層図（S＝1/40）

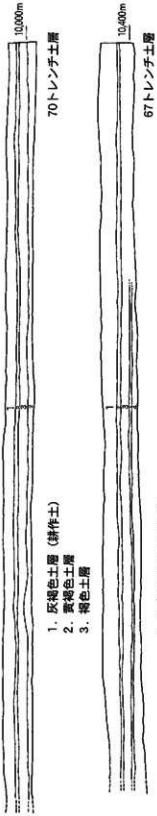
写真１　田畑地区 41トレンチ溝



第5図　調査区トレンチ位置図



第6図　田畑地区 2区トレンチ配置図



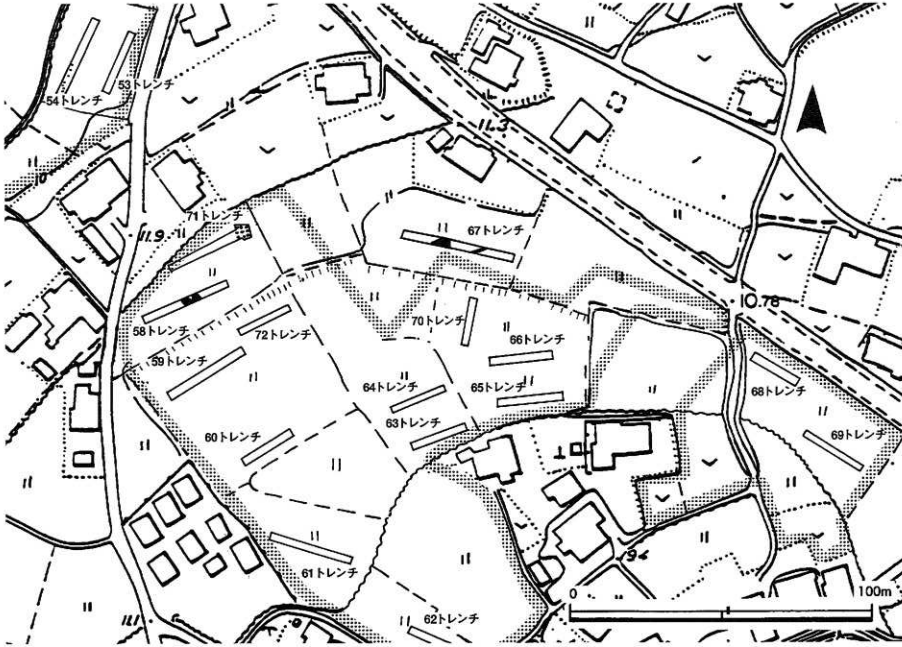
第7図　70、67トレンチ土層図

67トレンチでは須恵器、土師器片が大量に出土した。また溝状になると思われる遺構と竪穴になると思われる遺構が検出された。しかしこの地点は、農道ができるだけで、工事において現状と変わることがないことから本調査には至らなかった。この3本のトレンチ(58、67、71トレンチ)より南側では遺物は僅かに検出できたが遺構は確認されなかった。聞き取りによると『昭和初期に地下げが行われた』とのことである。現在の耕作土も70cm程の差が確認できる。図7の土層図で4番の黒色土から土器は出土している。3区では、工事で盛土が行われるが58、71トレンチ周辺を本調査の対象とした。

3区出土遺物

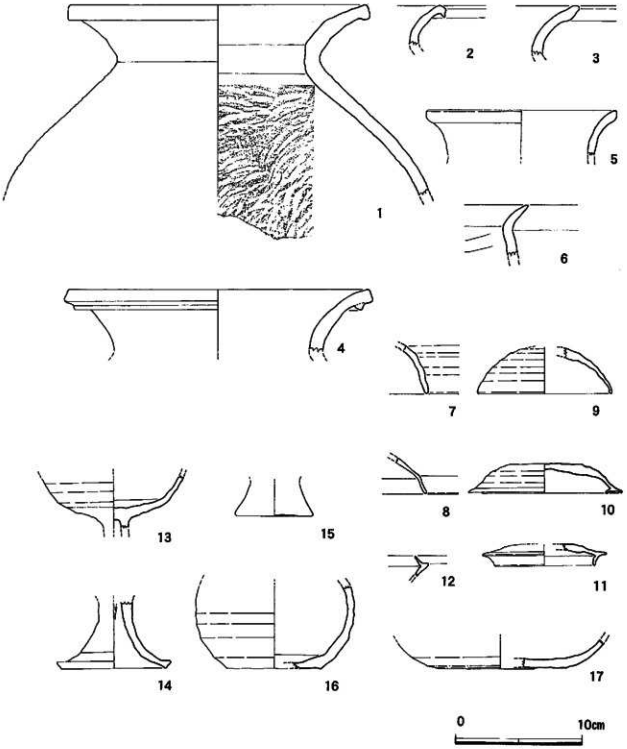
1は須恵器の甕である。体部は欠損する。口頸部は外反しながら開き端部でやや降下する。復元口径23.2cmを測る。2も須恵器の甕の口縁部になると思われる。端部は若干肥厚し下方につまみ口ばし状を呈す

写真2　田畑地区67トレンチ



第8図　田畑地区 3区トレンチ配置図

る。3も須恵器の甕になると思われる。口頸部のみ。緩やかに外反して端部へ至り、端部でやや肥厚する。4も須恵器の甕になると思われる。口頸部は外反し、途中断面三角形の突帯を有する。端部は方形を呈す。復元口径23.8cmを測る。5は土師器の甕と思われる。端部は僅かに肥厚し、方形を呈す。復元口径14.8cmを測る。6も土師器の甕になると思われる。胴部内面に指削りを施す。7は須恵器の坏蓋になると思われる。端部は緩やかに下方へ垂下する。端部は丸い。内外面とも回転



第9図　67トレンチ出土遺物

ナデを施す。8も須恵器の坏蓋になると思われる。口縁部は僅かに外反し端部は丸みをもつ。9も須恵器の坏蓋になると思われる。口縁端部は丸くおさまる。回転ナデを施し、復元口径10.4cmを測る。10も須恵器の坏蓋になると思われる。天井部は平坦で湾曲して降下し端部で屈曲して開く。口縁端部は丸い。かえりは内傾し、端部は丸い。復元口径9.8cm、器高2.3cmを測る。11も須恵器の坏蓋になると思われる。口縁端部は水平に外方へのび、かえりは内傾し端部は尖りぎみ。復元口径7.8cmを測る。12は須恵器の坏身と思われる。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はやや上外方へのび、端部は丸い。13は高坏になると思われる。緩やかに湾曲して上外方へのびる。14は高坏の脚部と思われる。緩やかに開き接地する。底径8.2cmを測る。15は土師器の底部になると思われる。摩滅が著しく調整は不明である。底径6.1cmを測る。16は須恵器の壺状か。胴部は回転ナデを施す。復元底径7.4cmを測る。17は須恵器の底部である。底部に回転ヘラ削りを施す。作りが丁寧に感じられる。復元底径9.2cmを測る。

4区

4区は1区と同様の地形になると考えられる。工事が行われる北側、南側は標高13～15m程の台地が広がる。南側の台地は2区につながる。強湿地で重機でトレンチをあけるとすぐに水がたまり、調査は難行した。73トレンチ～92トレンチまで遺物は僅かに検出されたが、遺構は確認されなかった。93トレンチは南側の台地上になるが、台地の落ち際で遺構、遺物は確認できなかった。今回、工事の対象ではないが、93トレンチ周辺では小さな土器片が容易に表採することができる。マルド池周辺の畑地は遺跡が存在するものと思われる。4区は本調査の必要はないものと判断した。

3. まとめ

田畑地区は前年度調査区、八反ガソウ地区と同様の地形であったと思われる。1区と4区は台地に挟まれた低湿地で台地から流れ込んだと思われる土器片が出土した。1区で検出した溝状遺構は、周辺のトレンチの状況から水田に関わるものと思われる。溝からの出土遺物はなく本調査で明らかにしたい。台地の広がる2区は遺跡の存在が期待された。しかし、本調査を必要とするのは1,000㎡程である。平成9年度向地区で調査した古墳時代後期の竪穴住居が検出された地点に隣接し古代の遺跡の広がりが期待される。また3区、58トレンチ、71トレンチ周辺では平成10年度調査区八反ガソウ地区で(整理作業段階であるが)数十棟の掘建柱建物などが検出されており、この地点との関連も考えられる。以上のことから田畑地区は八反ガソウ地区に比べ遺跡の存在は極端に少ない。平成9年度調査区向地区で遺跡の存在を確認できなかったこととあわせて定留遺跡の性格、立地を明らかにしていきたい。

(参考文献)

『福島遺跡人垣地区(Ⅲ) 定留遺跡向地区』
中津地区遺跡群発掘調査概報(X) 中津市教育委員会 1998

『福島遺跡東入垣地区(Ⅳ) 定留遺跡八反ガソウ地区』
中津地区遺跡群発掘調査概報(XI) 中津市教育委員会 1999

第3章　台遺跡

第10図　台遺跡周辺図

1．調査に至る経緯、概要

台遺跡は、標高35m程の台地上に立地し弥生、古墳時代遺物包蔵地として周知される。台遺跡の周辺には相原山首遺跡が立地する。相原山首遺跡は平成５年度には調査が行われ５世紀中頃～９世紀に至る墓地群が発掘された。現在、風の丘公園として復元され周知される。平成11年11月に台遺跡内において、ひばりヶ丘病院建て替えの工事がもちあがり試掘調査が行われることになった。調査は重機による掘削により行われた。現在、病院の運動場として使用されている場所が建設予定地であることからここにトレンチを設定した。設定したトレンチは5本。表上から20cm程掘り下げ地山を検出したが遺物、遺構とも検出できなかった。一部約2m程掘り下げ土層観察から当地はすでに削られており、遺跡の存在はないものと思われた。このことから本調査の必要はないものとし、埋めもどして調査を終了した。

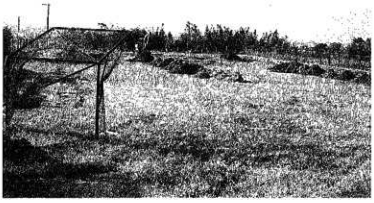


写真３　ひばりヶ丘病院試掘風景

図版１　定留遺跡田畑地区

田畑地区　１区風景

田畑地区　２区から１区風景

田畑地区　２区風景

図版２　定留遺跡田畑地区

田畑地区　３区風景

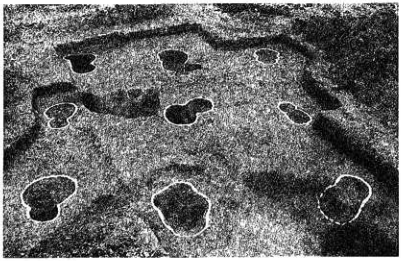
田畑地区　試掘風景

田畑地区　試掘風景

図版３　定留遺跡田畑地区

田畑地区　２区試掘風景

田畑地区　４区試掘風景

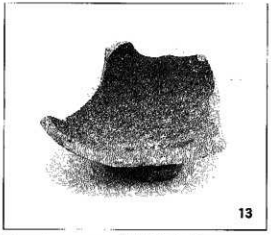


田畑地区　71トレンチ掘立柱建物

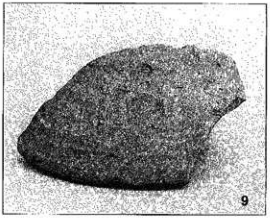
図版４　定留遺跡田畑地区

田畑地区　58トレンチ

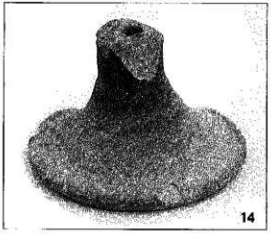
1



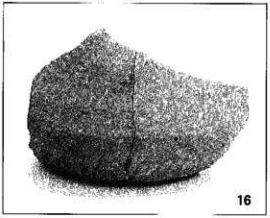
13



9



14



16

報告書抄録

ふりがな	さだのみいせき　たばたちく　だいいせき
書名	定留遺跡　田畑地区　台遺跡
副書名	1999年度中津地区遺跡群発掘調査概報
巻次	(XII)
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第24集
編著者名	花崎　徹
編集機関	中津市教育委員会
所在地	大分県中津市豊田町14−3
発行年月日	2000年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
定留遺跡 田畑地区	大分県中津市 大字定留1064 他	44203	101034	33° 34′ 48″	131° 14′ 49″	1999 0721 ～ 1999 1015	15ha	圃場整備
台遺跡	大分県中津市 大字相原 3032-35	44203	101044	33° 33′ 51″	131° 11′ 46″	1999 1119	3,000㎡	病院 建替え

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
定留遺跡 田畑地区	集落	古代 中世	掘建柱建物 溝	須恵器 土師器	
台遺跡	遺物 包蔵地	弥生時代 古墳時代			

定留遺跡田畑地区
台　遺　跡

1999年度 中津地区遺跡発掘調査概報
中津市文化財調査報告　第24集

2000年3月31日

発行　中津市教育委員会
印刷　㈱川原田印刷社